

岡山市入札外部審議委員会の概要

平成28年度第4回岡山市入札外部審議委員会（以下「審議委員会」という。）を下記のとおり開催しましたので、その概要についてお知らせいたします。

記

1 開催日

平成29年2月1日（水） 午前10時00分から午前11時50分

2 開催場所

岡山市水道局 6階研修室

3 出席委員（敬称略 五十音順）

岡崎 優子，平野 正樹，松本 正子，的場 真介，和田 治郎

4 事務局

（1）岡山市

佐々木審議監，山本契約課長，内海契約課工事契約担当課長，大月契約課管理係長，水野契約課物品契約係長，藤本契約課工事契約係長，林契約課課長補佐，堀井契約課副主査

（2）水道局

西井統括審議監，浅田管財課長，御幡管財課課長補佐，児子管財課契約係長，小山管財課副主査，平山管財課主任

5 会議次第

（1）開会

（2）議題

- 1 岡山市抽出議案について審議
- 2 岡山市水道局抽出議案について審議
- 3 その他

6 会議概要

1-1 岡山市抽出議案「米倉排水機場ポンプ分解整備ほか修繕工事」について

Q：落札率が100%という結果となったことについては、どういう要因が考えられるのか。

A：施工課に聞いたところ、見積を3業者から取っており、その中で一番安い見積を採用している。農林水産省が出している積算基準表があれば、ほぼ積算できるようになっているとのこと。1者応札については、前回の審議会でも話したが、既設のポンプメーカーに影響されやすいのではないかと聞いています。

Q：この資格に該当する指定業者は、何者いるのか。

A：25者いるのを確認している。

Q：一般競争入札でも、1者しか応札がなかったということか。

A：応札は1者のみだった。

Q：一番安い見積を採用したということだが、採用したのは落札した業者の見積か。

A：落札した業者の見積を採用している。

Q：落札した業者は、これまでも修繕関係の工事をしているのか。

A：ポンプの修繕関係の工事を従来からしている業者である。

Q：ポンプを取扱できる業者が25者ということだが、そのうちこのポンプを取扱できる業者というのは、何者あるのか。この1者しかできないとなると、自然にこの1者になると思うが。

A：このポンプのメーカーの代理店は、落札業者だけしか把握していない。

Q：代理店は25者の中で、落札業者だけということか。

A：代理店を通しての購入という形を取らざるを得ないということが、こういった結果になっているのかもしれない。

Q：見積を取った他の2社は、このメーカーの代理店か。

A：代理店ではない。

Q：この1者しかいないわけなら、他のメーカーの代理店がいくら頑張っても勝てないような気がする。そうすると、代理店の効率性が本当にあるのかということになってくると思う。

A：県外に広げて見積を出させるのは、なかなかできていない状況である。

Q：競争が働きにくいことをどう打開するかというのが、いろんなところで共通に出てくる問題なので、引き続き研鑽をお願いしたい。

1-2 岡山市事案「買電契約における入札結果」について

Q：入札に参加している電力会社の特徴というのはあるのか。

A：金額の高いWTO案件に絞って応札してくる会社や、金額の低い案件も応札してくる会社もあり、会社の方針もいろいろである。

Q：その中で、競争というのはいかなるのか。

A：同じ施設で2回、3回と入札しているが、削減額は出ている。

Q：施設をまとめて入札したほうが削減効果が大きくなると思うが、課を越えて入札するというのは難しいのか。

A：入札契約事務は、各所管課がしており、各施設の特殊性もあることから、難しい面がある。他の政令市の状況も大体同様であるが、今後、工夫していきたい。

2-1 水道局抽出案件「半田山植物園植栽整備その他工事」について

Q：落札業者は、ここの維持管理を何年くらいしているのか。

A：公園協会へ確認したところ、指定管理者制度が始まって以降は、指名競争入札で落札し継続的に行っているとのこと。それ以前は確認できていないが、頻繁に業者が変わっているようなことはないようだ。

Q：指定管理者制度はいつできたのか。

A：平成20年で、現在3期目となる。

Q：この分野では、あまり競争が働く余地がないようだが、工事の適切な経費等を勘案して、過大とならないように担当課のほうで十分にコントロールしているということなのか。

A：そのとおり。

2-2 水道局抽出案件「半田山配水場流量調整弁及び電気計装設備設置工事」について

Q：金額がすごく高いが、応札者が1者だけというのは、業者にとってあまり魅力がないということなのか。

A：入札参加資格に該当する業者は、市内に10者程度しかいないと思う。さらに、金額も高いので、結果的に参加業者が少なかったのではないかと考えている。

Q：上水の安定供給ということと、競争性の確保というものを天秤にかけた時に、なかなか悩ましい問題が出てきそうだが、もう少し競争性を広げようと思えば、どのあたりで妥協できるのか。

A：24時間安心して水を送るという水道事業の根本的な使命を果たそうということ、ハードルが高い施工実績を求めている部分はある。どうやって競争性を高めるかということについては、このハードルを若干なりとも下げることが現実的かという気がする。ただ、この部分については、水道事業として譲れない部分もあるので、そのせめぎあいの中で、こういった施工実績を求めている。今後は、契

約担当課でも発注課と十分に協議をしながら、極力競争性を高めるような入札方式を考えていきたい。

(終了)